

和歌山県立向陽中・高等学校

1. 沿革・概要

大正 4 年	県立海草中学校開校
昭和 23 年	県立向陽高等学校と改称
平成 5 年	環境科学科設置
平成 14 年	文化科学科設置
平成 16 年	併設型中・高一貫教育校 向陽中学校開校
平成 17 年	開校 90 周年記念式典
平成 18 年	文科省 S S H 事業研究指定

卒業生は 32,000 人余を数え、県内・県外、国内外を問わず有為な人材を送り出している。

現在生徒（クラス）数

高校部

普通科	16 クラス
環境科学科	6 クラス
文化科学科	3 クラス
計	25 クラス 1,001 名

中学部 6 クラス 240 名

合計 31 クラス 1,241 名

2. 教育方針

基本目標

教育基本法に示された人間形成を目指し、「豊かな知力」、「たくましい気力」、「強い体力」を総合一体とした能動的、生産的、集团的、独立的な諸特徴をそなえた自由闊達な人間をつくりあげる。

このため、本校教育の基本をつぎの諸点におく。

1. 個々の生徒が「生来持っている能力」を最



大限にひきだす。

2. 「民族や人類の文化遺産や伝統を尊重し、世界的な視野でものを考える力」を身につけさせる。
3. 「基本的人権」の認識を正しく身につけさせる。
4. “生きる”ということに喜びを感じさせ、「積極的に生きる力」を身につけさせる。
5. 「よく考えて行動する力」を身につけさせる。
6. 「豊かな情操」をもたせ、何事にも「積極的に取り組む気風（やる気）」を育てる。

3. 平成 18 年度入試合格状況

●国公立大学 124 名

北海道 筑波 横浜国立 富山 金沢 信州
静岡 愛知教育 名古屋 三重 京都 京都教育
京都工芸繊維 大阪 大阪外国語 大阪教育
神戸 奈良女子 和歌山 鳥取 島根 岡山
広島 徳島 香川 愛媛 高知 鹿屋体育

●公立大学 36 名

群馬県立県民 岐阜薬科 滋賀県立 大阪市立
大阪府立 神戸市外国語 兵庫県立 和歌山県立医科
高知女子

●私立大学 553 名

早稲田 慶應義塾 法政 立教 東京理科 上智
明治他 関西・関西学院・同志社・立命館へ 134 名

●短期大学 29 名

京都市立看護短期大学 他

●専門学校 48 名

和歌山県立高等看護学校 和歌山赤十字看護学校
他

4. 学校の特徴

学科の構成は普通科を中心に自然科学系の学部・学科への進学を目指す環境科学科、および国公立大学の人文科学系学部・学科への進学をねらいとする文化科学科の3学科体制である。生徒の進路希望は国公立大学を目指すものが圧倒的に多く、大学、短大および医療・介護系等で99%以上を占める。平成4年に「二期制」を導入して以来、生徒・保護者・地域の人々の要望や期待に応えるために毎年のように改革や新しい試みを実施してきた。具体的には、以下の通りである。

平成 4 年度・「二期制」の導入

平成 5 年度・「環境科学科」の設置

・「65 分」授業の導入

平成 7 年度・「70 分」授業の導入

平成 8 年度・「週例テスト」の実施

平成 11 年度・「宿泊研修」の実施

・「学習合宿」の実施

平成 12 年度・県教委「あすなろ」事業への取り組み

平成 13 年度・「自校入試問題」の作成

平成 14 年度・「文化科学科」の設置

・「海外修学旅行」の実施

・「長期休業日」の短縮

・「土曜の教室開放事業」実施

・「海草・向陽塾」の実施

・習熟度別授業の実施（英）

・文科省 S P P 事業への取り組み

平成 15 年度・習熟度別授業の実施（英・数）

・文科省 F H S 事業への取り組み

平成 16 年度・向陽中学校開校

平成 18 年度・「土曜サテライト講座」実施

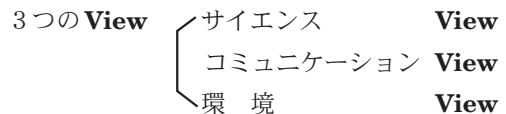
5. 併設型中高一貫教育

平成 16 年度より環境科学科への接続を前提とし、理数教育を重視した向陽中学校が開校した。

和歌山県で初の県立中学校とあって県民の期待は大きく、定員2クラス80名に対して毎年10倍近い志願者がある。平成19年度には中学校から高校に内部進学することになるが、全員が環境科

学科に進むことにより、外部の中学校からの募集は停止する。平成18年度より文科省のスーパーサイエンスハイスクール事業（SSH）の研究指定を受け、6年間の中高一貫教育における理数教育のシステム構築と学習の深化に取り組むことが課題となり、同一学科における教育課程の多元化には無理が生じるためである。このことについて従来の環境科学科志望の生徒については、普通科理系の内容を深めることによって対応していく。

1. 向陽中学校の教育の特徴



- ・理科・数学を重視し、自然科学に関する幅広い力を育成するため、特色ある教科を設定
- ・活発な言語活動を取り入れた国語や英語によるコミュニケーション能力や表現力の育成
- ・向陽高校環境科学科への接続を前提とした6年間にわたる環境学習の導入
- ・中高の合同実施による学校行事やクラブ活動等、特別活動の充実、活発化

2. 特色ある取組

・朝の読書

毎朝 8:30 ~ 8:50 各自が学校図書館、学級文庫、自宅等から本を選択し、読書する。

・環境学習

総合的な学習の時間を利用し、環境に関する学習を行う。現在は川の水質調査に向け準備中。

・学校行事の合同実施

文化祭ステージ部門では、高校の演劇部や放送部のサポートのもと、劇、合唱に取り組み、保護者等から最大限の評価をもらう。新入生歓迎会や春秋の芸術鑑賞等、向陽ならではの学校行事にも高校生とともに参加。

・直接体験・自然体験の重視

5月、7月の2回にわたって1泊2日の合宿を実施。野外調査を始め、集団行動、野外炊飯等の実践の機会とする。

6. SSH（スーパーサイエンスハイスクール） 研究開発

平成18年度文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、中高一貫教育の下で、科学の基礎から主体的な研究に深化させる理数教育、多面的に考察する力を育成するための環境教育を構築するための研究活動を実施している。

●本校のSSH開発課題

- (1) 科学に関する基礎知識の定着に向けた「学習」から主体的な「研究活動」に発展させる理数教育システムの構築を図る。そのため、大学教授等との連携・協働による継続的な指導のもと実験を中心とした多様な学習活動を幅広く展開する。
- (2) 「環境問題」をテーマに、自然科学や社会科学の両分野からアプローチするとともに知識の統合化を促し、多面的に考察・探究する力を育成する。
- (3) 理系の併設中学校と連携し、6年間の中高一貫教育において体系的かつ高度な理数教育を行う教育課程の研究開発に取り組む。

●研究開発の実施規模

環境科学科1学年を中心に2学年も加え学年進んで実施する。普通科理系の生徒、科学系クラブの部員も可能な限り参加させる。また、必要に応じて中学生についても参加させる。

●研究開発の内容（抜粋）

①学校設定科目「SS探究科学Ⅰ」

科学に関する基礎知識の定着に向けた「学習」から主体的な「研究活動」に発展させるための理数教育システムの構築を図るため、「SS探究科学Ⅰ」「SS探究科学Ⅱ」を設置する。

「SS探究科学Ⅰ」では、中学校で学ぶべき理科の実験のうち実際には経験できていない実験もあるということを前提に、中学校の学習レベルの復習をも含んだ基礎的な内容についても学習し、基本的な実験操作の習得や課題研究に向けてのスキル向上の取組を行う。また、体験的な学習を通

じて自然現象を正しく学ぶ機会を設ける。

「SS探究科学Ⅱ」では、先端科学技術についてなど発展的な内容の実験、講義を取り入れるとともに、自らの研究テーマを探究していく課題研究を行う。

②学校設定科目「SS環境科学」

自然科学分野と社会科学分野の2領域の講座からなる授業を展開し、その理論を体系的に学習する。また、環境政策論題をテーマとしたディベート学習に取り組むことによって、知識の構造化をはかり、自らの問題意識を育てる。

③大学・研究機関との連携による実験講座

近隣の大学や研究機関の研究者を学校に招へいし、研究活動を行う。実験による研究方法、実験技術、結果をもとにした考察法などを体験的に学習する。

④大学・研究機関との連携による先端科学技術の講演会の実施

県内の大学を中心とした研究機関の研究者等による最先端の科学技術についての講演会を実施することで、自然科学や科学技術に対する興味・関心を高め、科学的自然観を育成する。

⑤大学・研究機関との連携による研究室訪問

大学や研究機関の研究室を訪問し、研究体験を行うことで、先端科学技術について学習するとともに、将来の研究者・技術者として、研究に対する姿勢を学ぶ。訪問先としては、県内にある大学の他、京都大学宇治地区研究所、大阪大学工学部環境エネルギー工学科、神戸大学、関西大学、近畿大学原子力研究所などを計画している。

（文責 和歌山県立向陽高等学校教頭 藤田憲太郎）



原子炉運転実習（近畿大学原子力研究所）